

JTA 女性副操縦士2人誕生

中尾郁海・山本将子さん

「将来はキャプテンに」

日本トランスオーシャン航空（JTA、野口望社長）の中尾郁海さん（24）と山本将子さん（29）がこのほど、副操縦士に昇格した。JTAで女性の副操縦士誕生はこれで4人。2人は「女性パイロットが働きやすい環境づくりに励みたい」と抱負を語る。

2人は2022年1月に入社し、社内研修や座学、シミ

ュレーター訓練などを経て、今年7月に副操縦士となった。

中尾さんは兵庫県出身で、崇城大学の工学部宇宙航空システム工学科操縦学専攻を卒業。沖縄好きな両親の影響で小さい頃からよく沖縄を訪れていたといい、中学3年生の時にパイロットを目指し始めた。



737-800のコックピットに座るJTA副操縦士の中尾郁海さん（11日、那覇空港）



737-800のコックピットに座るJTA副操縦士の山本将子さん

「将来の夢は多くの人に愛されるキャプテンになること。整備士や地上ハンドリングともコミュニケーションを取り、まずは毎日のフライトにしっかりと向き合いたい」と笑顔で話した。

山本さんは大阪府出身。大阪市立大学の文学部言語文化学科英米言語文化コースを卒業したのちに、航空大学校の飛行機操縦科を修了した。

空に関わる仕事が夢で、女性就くのは客室乗務員だと思っていたが、幼い頃の仕事体験で向いていないと感じた。大学2年生の時の体験操縦をきっかけにパイロットを目指して、航空大学校進学を決意した。

大学校では、1クラス27人中女性1人で、女性のいないクラスもあった。女医、男性保育士など呼び方にまだ珍しがられていることが表れているとして「誰でも努力すればどの職業でもなれる。私がパイロットとして活躍することでも将来のパイロットづくりにも尽くしたい」と話した。

機長になるには通常7〜10年かかる。JTAの担当者は「わが社初の女性機長の誕生に期待したい」と目を細めた。（與那覇智早）